

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈教育課程〉 多様な進路選択に対応できるような教育課程を工夫し、幅広い生徒の学習希望に応えられるように学習機会を提供し、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援するとともに、体験的な学習を取り入れた特色のある学校づくりを推進する。</p>	<p>○現行の教育課程の検証を行い、多様な進路選択に対応できる教育課程作成を目指す。 ○進路希望の把握と進路意識の育成のため、各学年で進路説明会等を充実させる。 ○実力テストの充実を図る。 ○進路に関して、生徒・保護者向けの情報発信を充実させる。</p>	<p>○教科代表者による教育課程検討会の実施状況 ○進路説明会等の実施状況 ○実力テスト等の実施状況 ○保護者懇談会や三者面談の実施状況</p>	<p>○教育課程検討会（教育課程PT）を10回実施し平成28・29年度の教育課程の見直し等を行った。あわせて各教科会を行い全職員で課題・改善点の共通理解を図った。  ○進路オリエンテーション・各種説明会などを予定通り実施した。2年次の進路講演会の回数を増やし、進路実現に向けた指導を強化した。  ○年2回の実力テストを予定通り実施した。今年度から3年次には河合塾の模試を実施したが、一般受験を目指す生徒の増加もあり、欠席者が非常に少なく、おおむね好評価であった。  ○職員対象の研修会は予定通り実施し職員の指導力向上に役立った。保護者懇談会で進路に関する説明を行った。</p>	<p>○教育課程検討会では、県立高校改革を基本に本校の課題・改善点を各教科で共有し教育課程の見直しを行い、平成30年度の完成をめざし検討をする。 ○3年間の進路関係日程を精査し、よりよい進路指導を行う必要がある。 ○各学年に適切な模擬試験を選択・実施し生徒の学力向上に向けた指導にいかすことが重要である。3年次の模試の問題回収方法を改善し、生徒が実施後すみやかに振り返りができるようにする。  ○新採用職員も増えることから来年度も充実した研修会を実施する。保護者に対する進路説明会・質問を受ける機会について検討する必要がある。</p>	<p>（学校評議員） ○横浜市の各中学校でも3年前から授業時間を確保する取組を行っている。しかし、単に行事を減らすだけでは生徒のモチベーションがさがる。バランスの良い計画を立てる必要がある。 ○キャリア教育に関しては進学指導に力点をおきすぎでないか。将来を見据えた「職業教育」という視点がもっとあってよいと思う。 ○資格取得の機会の確保やそこに向けた取組について学校全体として組織的に取り組んでほしい。 ○難関校やMARCHなどへの進学実績があがっていることは良い傾向である。</p>	<p>（学校評価） ○教育課程検討会では、平成30年度に向けた教育課程編成について検討した。教育課程編成に加えて授業時間数の充実に向け「55分授業」や「土曜授業の実施」などを検討する。 ○年2回の実力テストは予定どおり実施し生徒の意識の向上を図った。今後は充実した振り返りや進路指導などに取り組む必要がある。資格取得の機会の確保、検定試験等のニーズの高まりへの対応が課題である。（改善方策等） ○教育課程PTの構成員の改善を図り学校全体の教育活動を見ずえた教育課程を編成する。</p>

			<p>○「総合的な学習の時間」での学習やオープンキャンパス報告発表、職業人インタビュー報告発表を通じ、生徒が具体的に進路選択を考えるよう指導した。進路に関する意識が高まり、日頃の学習への取組みを一層大切にするようになった。3年次の課題研究においてプレゼンテーションの準備と発表に主体的に取り組む指導が徹底できた。</p> <p>○2・3年次での科目選択などでは本人、保護者と面談を行うなど細やかな指導を行った。</p> <p>○AO入試・推薦入試の生徒に模擬面接を行い、一般入試の生徒には講習を実施するなど、生徒一人ひとりの進路実現に向けて指導を強化した。就職希望の生徒にはガイダンスや面接指導を徹底して行い、希望する事業所から内定を得た。</p> <p>○今年度は新たにサポートティーチャーが配置されキャリアアグループと連携し面接指導や小論文指導、志願書類作成等生徒の進路支援を行った。</p>	<p>○具体的な進路選択に向けて「総合的な学習の時間」での導、生徒や保護者との面談をしてさらに細やかな指導を行いたい。また、自己目標の実現に向けた取組みを徹底して、生徒がより深く自分の将来を考えられる指導の工夫が必要である。</p> <p>○進路の希望や適性を意識した選択科目の指導において具体的な進路に応じた科目選択を生徒にさせる。</p> <p>○将来の進路について確定できない生徒もいるので、今後とも保護者との一層の協力と理解を得ながら、生徒一人ひとりとの面談やきめ細かい指導を継続していく。</p> <p>○進学にかかる費用や奨学金制度について保護者への情報提供や理解を促す必要がある。</p> <p>○来年度もサポートティーチャーが配置されるので年間を通して活用し生徒の進路支援に役立てたい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○模試等の実施回数をもっと増やしてほしい。3年生になってからでは遅いので、模試を通して他校との比較や自分の立場の意識づけを学校全体の取組みとしてもらいたい。</p> <p>○英検、漢検、歴検等もっと学校でも参加、受検を勧めて、生徒のキャリアアップをしてほしい。</p>	<p>○実力テストは年2回、ベネッセ、河合塾、学研の模試を実施し、進路指導への活用や振り返り等の方法を検討する必要がある。</p> <p>○検定試験や資格取得試験については生徒への周知や授業での取組を図り受検者と合格者の増加を図る。</p> <p>○3学年の進学では今年度は難関校や MARCH クラスへの合格実績が出ており生徒の希望も多い。生徒の進路実現に向けて1学年から補習・講習の充実と受講者の増加、進路講演会やガイダンスの充実を行う。</p> <p>○サポートティーチャーの活用では生徒への周知を徹底し生徒の活用状況を今年度より増やす。</p>
--	--	--	--	---	--	--

<p>〈生徒指導・支援〉ルールやマナーを意識した学校生活を送るとともに、教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制の充実をはかる。</p>	<p>○全職員の共通理解のもと、遅刻指導、頭髪・服装指導など生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。 ○規範意識の醸成のため、自転車教室・携帯電話教室（含む SNS 使用）などの講演会・講習会を実施する。 ○一人ひとりの生徒にきめ細かく対応し、支援を必要とする生徒について正確で丁寧な情報交換を行い、すみやかな対応を図る。</p>	<p>○遅刻、頭髪・服装の改善状況 ○講演会・講習会の実施状況 ○きめ細かな教育相談体制の確立</p>	<p>○1・2年次では集団生活等のマナーについて日常的に指導した。服装頭髪検査で対象者をリストアップして指導し、一定の改善がみられた。 2年次の修学旅行においても集団生活のルールについて概ね達成できた。3年次の受験準備を理由とした欠席、遅刻が増加している。 ○生徒の規範意識に差があり、校則が守れない生徒がいる。 ○通学時での苦情があるたび地域の一員としての自覚を促した。</p> <p>○自転車教室や携帯電話教室等の生徒対象の講演会、講習会は予定通り実施できた。今年度7月に、スケアードストレートを実施し生徒の安全意識の向上を図った。</p> <p>○不登校傾向のある生徒など支援が必要な生徒が多くなってきているが、十分な対応ができていない。スクールカウンセラーの来校を活用し、生徒の不安や課題を解消できるよう支援した。カウンセリンググループの整備をした。</p> <p>○保護者面談以外に、必要に応じて家庭連絡をし保護者の理解、協力を得た。遅刻の多い生徒に対して家庭への電話や文書等で注意を喚起し、指導を強化した。</p>	<p>○保護者との連絡を密にし協力しながら今後も遅刻・頭髪・服装指導を継続して行き基本的な生活習慣の確立をする。特に3学年では、遅刻する生徒や午後の授業の無断早退などに対する指導が課題である。進路準備だけでなく学校の授業を大切にできちんと取り組ませるために家庭との連携がさらに必要である。</p> <p>○自転車教室や携帯電話教室等の実施においては、生徒の興味・関心を高める講演会や講習会を計画し、さらに生徒の規範意識や安全意識の向上を図ることが重要である。 ○教育相談を必要とする生徒の把握をする。スクールカウンセラーの活用を進め、スクールカウンセラー・養護教諭・生活支援グループ職員との連携を組織的に構築する。 ○日頃から保護者との連絡を密にし、家庭と連携して生徒指導を行う。</p>	<p>（学校評議員） ○教育相談の充実が望まれる。不登校の生徒は多くはないようだが、発達障害をかかえる生徒や学校になじめない生徒が SC に相談している。ぜひ学校全体の取組みを進めてほしい。</p> <p>（保護者） ○生徒が遅刻に関してルーズな雰囲気がある。もっと家庭にも協力してもらってメリハリのある生活をしてほしいと思う。 ○校内でのあいさつは、部活動をやっている生徒はやってくれたが、それ以外の生徒も積極的にできる、明るい校内を目指して「あいさつ運動」「あいさつ月間」などをすすめてもよいと思う。 ○不登校・いじめなどで困っている生徒について子ども同士で情報がある場合もあり、個人情報をしっかり守ることを生徒に説明し、教職員にもっと話しやすい雰囲気を創ることが大切だと思う。</p>	<p>（学校評価） ○遅刻、頭髪・服装指導については、各学年で一定の改善がみられた。生徒の規範意識に差があり課題である。 ○講演会・講習会はほぼ計画どおりに実施できた。スケアードストレートを実施し成果となった。 ○教育相談では、スクールカウンセラーの面談件数は同数であったが、保護者の相談件数が増加した。保護者への SC の周知が昨年度よりできたと考えられる。 （改善方策等） ○引き続き学校全体の取組としての登校時の遅刻、頭髪・服装指導を実施する。年間30日以上遅刻者は保護者に連絡し家庭と連携した指導を行う。また、3学年の3学期の欠席・遅刻についてキャリアグループと連携し改善する。</p>
--	--	---	---	--	---	---

			<p>○学年会で生徒についての情報を交換し学年内での情報の共有をした。</p> <p>○各学期1回いじめ暴力等防止アンケートを実施しいじめ防止会議を開いた。日常的に問題の早期発見と迅速な対応に努めた。ケース会議で課題のある生徒について話し合い対応した。</p>	<p>○学年会では情報交換の時間を設定し学年団の情報共有を図る。支援が必要な生徒についてケース会議を開き、情報共有し対応していく必要がある。</p> <p>○いじめ暴力等防止アンケートを実施し、いじめ防止会議を計画的に開くなど生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう迅速に対応する。</p>	<p>○教育相談については、月に1回のカウンセラーの来校では課題を抱えている生徒に十分に対応できないのではないか。回数を増やすなどできないか検討してほしい。</p>	<p>○講演会・講習会を計画通り実施する。特に SNS、メッセージアプリ等に係るトラブルが発生しているので生徒の理解を深めさせる研修会を計画・実施する。</p> <p>○教育相談コーディネータとスクールカウンセラー、養護教諭と連携した組織的な教育相談体制の構築が喫緊の課題である。学校全体で課題のある生徒を個別に支援できる体制づくりする。</p>
--	--	--	--	--	--	---

<p>〈学習指導・授業改善〉 生徒の学習意欲を向上させ、各教科における基礎学力を高めるとともに、思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の工夫・改善を進める。</p>	<p>○グループワークの活用や授業展開の工夫を通じて、生徒の積極的な発言を促す場面や考えさせる場面を増やすなど生徒主体の授業を目指す。 ○確かな学力の向上を図るために長期休業中等に補習、講習を実施する。</p>	<p>○授業における生徒の主体的な取り組み状況 ○補習・講習の実施状況 ○生徒による授業評価(1回目)を踏まえた授業改善の取り組み状況 ○生徒による授業評価(2回目)の結果</p>	<p>○生徒の主体的な学びを推進し、生徒の思考力・判断力・表現力の育成をめざし、全職員が取り組んだ。</p> <p>○相互授業見学期間を設け、他教科の授業を見学する中で、新たな気づきを得る機会となった。特に「生徒にとって魅力的で、生徒が主体的に取り組むための授業」を統一テーマとし取り組むことでアクティブラーニングの理解も深まった。管理職による授業観察では、2回目の授業観察で9割程度の授業でねらいをふまえた授業展開の工夫が見られた。</p> <p>○各学年を通して生徒の授業への取り組みは良好である。3学年では、進学を意識して、積極的に授業に参加し学習に取り組む生徒が増えた。 ○補習と講習は、外部から講師を招く講座を設定するなどの工夫を行った。今年度も多くの生徒が補習・講習を受講して、意欲的に学習した。</p> <p>○各教科で生徒が主体的に取り組める授業展開を実践した結果、昨年度に比べて生徒による授業評価においてこの点についての評価が高まった。</p>	<p>○授業改善については、教科内での連携が不十分である。教科会の時間を設定し、各教科での取り組みを推進する必要がある。 ○年度当初に授業改善計画をカリキュラムグループが提示しているが、さらに「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた授業改善を進めるために有効な授業改善の「ねらい」を設定、共通理解し組織的な取り組みとして推進する必要がある。 ○与えられた課題や提出物についてしっかりと取り組む生徒も多いが、予習や復習等の自ら考え学ぶ主体的な学びに向けて、さらに継続して指導する必要がある。 ○補習と講習については、引き続き生徒のニーズに合った講座を設定する。外部講師を招く講座では大学や企業等との連携を進めたい。</p> <p>○生徒による授業評価では、評価結果を分析・検証し経年変化を捉え、授業改善にいかに関与できるかが課題である。</p>	<p>(学校評議員) ○アクティブラーニングを進める上では授業時間数の確保が必要となる。高校教育の中でどのように実践するのか難しい面があるのではないかと。○アクティブラーニングを進めるにあたり数学でどのように扱うのか。また、課題研究やグループワーク・ペアワークなど様々な指導方法を探り実践してほしい。 ○大学生と接していると「アクティブラーニングよりも、知識をシャワーのようにあびたい」という意見もある。メソッドの確立に向けて時間をかけて取り組んでいく必要があると思う。 ○アクティブラーニングの取組は小学校・中学校でかなり進んでいる。高校では知識の習得に力点をおいても良いかと思う。 ○生徒は行事や部活動には満足しているが「授業」には満足していないというアンケート結果があった。何か手立てが必要だと思う。</p>	<p>(学校評価) ○組織的な授業改善の取組では、統一テーマを設定しアクティブラーニングについての理解が深まり生徒主体の授業に取り組む教員が増したが、授業内容の充実では差が見られた。 ○生徒の授業への取組は良好であるが、授業への満足度は高くない。授業への満足度が課題である。 ○補習・講習の受講者は昨年度とほぼ同じ人数であった。より多くの生徒に受講させることが課題である。 (改善方策等) ○来年度も統一テーマを設定し組織的な授業改善に取り組む。 ○生徒が主体的に取り組む授業に向け効果的な研修の実施と全職員参加の相互授業見学を行い生徒の満足度を高くする。 ○補習・講習の人数は前年度比20%を目標とし受講者を増やす。また内容の充実を図る。</p>
---	---	--	---	---	---	--

<p>〈キャリア教育〉 学校行事や部活動を通じて、生徒の主体的な活動を促進し、他者を思いやる心などの豊かな人間性と社会性、自己有用感を育成する。</p>	<p>○生徒会オリエンテーションや仮入部制度、生徒会広報を充実させることにより、部活動の入部率アップを図る。 ○生徒会本部役員や生徒実行委員会を中心に、運動会や球技大会、岸高祭等の学校行事や委員会活動を自主的かつ意欲的に運営することで、学校行事を活性化し、自己有用感の育成を図る。</p>	<p>○部活入部率の昨年度比 ○生徒会広報誌の発行状況 ○各学校行事のアンケート結果</p>	<p>○今年度は、約7割の生徒が部活動に加入し、日々の活動を安全に有意義に行う事ができた。今年度の部活動加入率は昨年度に比べ1ポイントの微減であった。 ○運動会や岸高祭では委員会や部活動が中心となって運営され、保護者などからは好評を得ることができた。また、球技大会では生徒が主体的に考え、種目の変更など活性化することができた。  ○各行事のアンケート結果はおおむね良好であった。また運営方法や生徒の取組み等課題が明確になった。  ○他校の生徒会の生徒と交流会を持ち情報交換を行った。また、PTA本部役員と意見交換会をもち岸高祭の振り返りができた。  ○生徒会広報誌の発行は、計画的に発行できなかった。</p>	<p>○活動場所の確保や活動の充実に工夫が必要である。部活動の加入率が保持できていることはよい。さらに加入率が上がるよう生徒会オリエンテーション等の工夫をする必要がある。  ○授業の時間数の確保という観点から、行事の精選、工夫が求められている。生徒が主体的に取り組み生徒会行事を活性化させることが課題である。  ○委員会の活動については継続的な活動が主体的に行えるよう指導していきたい。来年度は、コミュニティ・スクールの実施に向け、現在の地域連携係を委員会組織とし充実した委員会活動を計画し活動する。  ○生徒会広報誌の発行は生徒会活動の情報発信で有効である。来年度は今年度の反省をいかし充実した活動としたい。</p>	<p>(学校評議員) ○地域交流については双方の職員が主体的に関わることができ実施方法を考えたい。高校生のよさをいかせる取組をお願いしたい。 ○地域の子どもたちとの部活動などの交流も行いたい。これまでに以上に様々な場面で交流を深めたい。 ○運動会・岸高祭を見学した。生徒がいきいきと活動していた。今後も生徒が主体となって活動して充実させてほしい。 (保護者) ○部活動により活動に温度差があるように感じた。どの部活動も均等に充実した活動ができるとよい。 ○PTAが手伝えることは手伝いたい。生徒の意向を聞き生徒の教育活動に役立つお手伝いができればと考えている。</p>	<p>(学校評価) ○部活動の加入率は約7割でほぼ前年と同じ割合であったがさらに入部率7割強になるようにすることが課題である。 ○生徒会広報誌は準備不足で発行できなかった。 ○各学校行事のアンケート結果はおおむね良好であった。運営方法等詳細では課題があるので次年度に改善を図る必要がある。 (改善方策等) ○部活動の加入率UPに向けて新入生オリエンテーションの内容やLHRでの説明の工夫、HP等を活用し部活動の活躍等を紹介するなど広報活動も行う。 ○生徒会広報誌を年3回発行する。 ○各学校行事のアンケートの分析・検証を行い、次年度に向けて全職員で課題を共有し行事の活性化を図るとともに行事の精選を検討する。</p>
--	--	--	--	---	--	--

<p>〈地域等連携〉 地域や近隣の学校・鶴見養護学校分教室および保護者との協働・連携を通じて開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>○「地域交流教育推進会」の活動に積極的に参加し、地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・鶴見養護学校分教室・神奈川大学等の外部教育機関・地域町内会等との連携の充実を図る。 ○インクルーシブ教育を見据え、鶴見養護学校との連携を推進する。 ○異校種・異年齢との交流を通じて、自己有用感の育成を図る。</p>	<p>○地域の教育機関との様々な連携事業の実施状況 ○鶴見養護学校職員による講演会の実施状況 ○本校生徒と異校種・異年齢との交流状況</p>	<p>○「篠原・岸根地区地域交流教育推進会」（すこやかサークル）の教育力を活かして、希望生徒による保育園・幼稚園実習を行い、クラブ交流・レク交流・短歌交流、及び連携した文化祭企画を充実させるべく活動を行った。</p> <p>○本校で開催された 地域音楽交流会がスムーズに開催されるよう、グループ内で準備等を協力して行った。</p> <p>○鶴見養護学校との連携では、避難訓練等の学校防災、運動会・岸高祭等行事で充実した取り組みができた。体育の「スポーツⅡ」の授業ではともに授業を行い交流を深めた。鶴見養護学校職員による「インクルーシブ教育とは」のテーマで職員の研修を行い、分教室の職員も参加し研修した。本校職員との交流も図れた。</p> <p>○「開かれた学校づくり」を念頭に、夏季休業中には、全平日の学校見学を実施した。また、学校説明会等の来校者も昨年同様多くアンケート結果からもわかりやすいと好評であった。</p> <p>○HPの情報発信は、おおむね適機に迅速に発信できた。</p>	<p>○コミュニティ・スクールの指定を受け、「地域交流教育推進会」の教育力を活かして神奈川県らしいコミュニティ・スクールの円滑な運営を行う。</p> <p>○篠原西小学校との様々な交流活動を、本校生徒の成長にどうに活かすことができるか。特に短歌交流等の授業交流、クラブ交流を篠原西小学校の職員と連携・協働し実施する。 ○幼・保・小・中との職員間交流を行い幼保から高校までの一貫した教育活動にいかす。</p> <p>○インクルーシブ教育をどう進めることが、鶴見養護学校・岸根高校、両校の生徒にとって望ましいのか、検討する。</p> <p>○学校見学、学校説明会については今年度活動を継続し、わかりやすく効果的な見学会・説明会を企画する。</p> <p>○HPでは迅速性とわかりやすさを心がけ情報を発信する。</p>	<p>(学校評議員) ○コミュニティ・スクールの指定を受けたのでこれまで以上に地域に根ざした学校づくりに取り組んでほしい。協力できることはぜひ協力したい。 ○コミュニティ・スクールについては地域として大歓迎である。生徒にどのように還元しどのような力をつけていくのかがポイントである。 (保護者) ○岸根町の地域連携はすばらしいものだ。ただやはりもう少し生徒の関わりを増やしていただくと親としてもやりがいがあり、親子で何かをできる達成感を味わえるのではないかと。 ○本校の地域連携の評価は他校からも高い。これからも生徒が積極的に参加できるようその内容を学校のホームページや広報誌でもっとアピールしてよいと思う。</p>	<p>(学校評価) ○「篠原・岸根地区地域交流教育推進会(すこやかサークル)の教育力を活用し、保育園・幼稚園との交流、篠原西小学校とのクラブ交流・レク交流、授業の短歌交流を行った。すこやかサークル主催の「すこやか祭り」など地域と連携・協働した活動を行った。 ○鶴見養護学校職員による講演会を実施し職員のインクルーシブ教育の理解を深めた。また分教室職員がともに参加したことにより相互理解が深まった。 (改善方策等) ○コミュニティ・スクールとして地域との連携協働を進めるにあたり、生徒がさらに主体的に関わることで現在の取組を発展させる。</p>
---	---	--	---	--	--	---

					<p>○まちcomiメールをもっと活用してほしい。プリント配付のお知らせなどぜひ行ってほしい。</p>	<p>また、コミュニティ・スクールにおける部会の発足にあたり地域力を活かした組織作りを行う。</p> <p>○鶴見養護学校と連携しインクルーシブ教育の推進を図る。さらに講演会の実施、個別の生徒支援で連携をする。</p> <p>○幼・保・小・中と授業や行事などで職員の交流を行う。生徒のボランティアや実習、クラブ交流や授業交流をいっそう進める。</p>
--	--	--	--	--	---	---



<p>〈学校運営・学校管理〉          事故・不祥事の防止を徹底するとともに、生徒・職員の防災意識を高め、地域と連携した災害時の体制整備など安心・安全な、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○公費・私費会計、現金管理に係る事故を未然に防ぎ、適正な私費会計の運営を行う。          ○職員啓発資料をもとに不祥事防止研修会を行い、職員の意識向上を図る。          ○生徒・職員の防災意識を高め、地域と連携した災害時の体制整備を推進する。</p>	<p>○会計監査の実施状況          ○事故防止会議の実施状況          ○防災訓練の実施状況          ○地域との防災体制の整備状況</p>	<p>○年度当初に全職員にマニュアル等を明示し研修を行い適正な会計の執行ができた。財務事務調査での指摘事項が昨年度の5割程度であり、特に部費の会計処理で改善がみられた。</p> <p>○事故防止会議を年間5回実施し、職員の意識向上を図った。あわせて不祥事防止研修会を年間10回開いた。朝の打ち合わせ等で全職員に情報提供をし事故不祥事防止を行った。</p> <p>○4月に防災訓練、8月に防災教室及び避難訓練、7月と9月に横浜市消防局との連携による防災教室を実施した。</p> <p>○10月には地域清掃活動、ボランティアによる校舎内の壁塗り、文化祭における美化委員会を中心としたゴミ箱コンクールや清掃活動を実施し、生徒の公共心の育成を図った。</p>	<p>○適切な予算案の作成を行い、速やかな執行を全職員に周知・徹底させ適正な会計処理をさらに推進する。</p> <p>○事故防止会議を年間6回程度実施する。不祥事防止研修会で全職員の共通理解を促すとともに、日常的な情報提供を行い職員の意識の向上を図る。</p> <p>○来年度以降の防災・避難訓練及び職員・生徒対象のDIG研修、「3.11の日の過ごし方」などについて検討する。          ○地域清掃や大掃除では、きちんと掃除し、ゴミの分別も徹底できているが、日頃の清掃活動やゴミの分別の徹底をさらに推進する。</p> <p>○来年度から学校行事に大幅な変更点があるので、それが適正かどうか検討する。</p>	<p>(学校評議員)          ○インクルーシブ教育を幼稚園では統合教育という。高校ではどのような形になるのか見えてこない。取組を明確にし知らせてほしい。          ○「男女協働参画教育」は県の重点課題であるはずだ。その視点が教育活動等に盛り込まれていないのは残念である。          ○教職員がいきいきと教育に取り組むためには教員自信のモチベーションが大切である。そのためにはワークライフバランスを考えることが必要である。教職員の成長が職員の成長、学校発展につながると思う。</p> <p>(保護者)          ○学校行事の見直しをするにあたり行事を減らすのではなく土曜授業や55分授業など検討してほしい。          ○PTAの会計監査等を行ったが前年度に比べ書類の不備などが減っていた。さらに適切な執行に努めてほしい。</p>	<p>(学校評価)          ○PTAの会計監査、県の財務事務調査では指摘事項が昨年度の5割程度であり部費は特に改善が見られた。          ○事故防止会議や不祥事防止研修会は計画的に開催できた。朝の打ち合わせや掲示を利用し職員へ周知した。          ○防災訓練・防災教室はあわせて年4回実施した。          ○地域の防災用品の備蓄や岸根消防団の講話などを実施しつながりを深めた。          (改善方策等)          ○全職員に予算マニュアルを配付し適切な執行を周知実行する。          ○事故防止会議や・不祥事防止研修会は時間を確保し適切に行う。          ○防災訓練・教室や生徒・職員のDIG研修を計画的に実施する。</p>
---	--	---	---	---	--	---